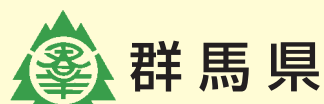


Supported by  日本 THE NIPPON  
財団 FOUNDATION

2018年度

「学術手話通訳に対応した通訳者の養成」事業

# 報告書



**2018年度**

**「学術手話通訳に対応した通訳者の養成」事業**

**報 告 書**

# 目次

<b>ご挨拶</b> .....	<b>5</b>
<b>事業概要</b> .....	<b>7</b>
事業概要 .....	8
2018 年度 手話サロン&手話ランチ .....	10
講義カリキュラム.....	11
<b>実績等</b> .....	<b>17</b>
2018 年度 講座・研修会・パンフレット等一覧.....	18
第 13 回全国手話検定試験 合格者数 .....	19
群馬大学広報誌 GU'DAY (グッデイ) .....	20
<b>学術手話通訳に対応した通訳者養成研修会</b> .....	<b>25</b>
講義時間割・担当講師紹介 .....	26
アンケート結果 .....	27
チラシ.....	29
<b>松岡和美先生研修会・講演会</b> .....	<b>31</b>
研修会・講演会資料.....	32
アンケート結果 .....	47
チラシ.....	51
<b>群馬大学公開講座「手話で学ぼう者学」</b> .....	<b>53</b>
「アイデンティティ再構築から考える『ろう・難聴者のこころの健康』」 .....	54
甲斐 更紗 (群馬大学 教育学部 研究員)	
「先天性盲ろう者がファンタジーを理解するためには？」 .....	57
森 敦史 (筑波技術大学大学院 技術科学研究科)	

「ろう・難聴と LGBT の複合的アイデンティティ」 .....	68
川端 伸哉 (群馬大学 学生支援センター 産学官連携研究員)	
アンケート結果 .....	72
チラシ .....	74
<b>「学術手話通訳に対応した通訳者の養成」事業シンポジウム .....</b>	<b>77</b>
式次第等 .....	78
チラシ .....	79
<b>成果発表 .....</b>	<b>81</b>
「群馬大学教育実践研究」第 35 号 掲載論文 .....	82
GID (性同一性障害) 学会 第 20 回研究大会ポスター発表 .....	89
全国高等教育障害学生支援協議会 (AHEAD-JAPAN)	
第 4 回大会ポスター発表 .....	92
第 14 回 日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク	
PEPNet-Japan シンポジウム発表 .....	93
トライアングル金山記念聴覚障害児教育財団主催	
オープンキャンパス講演会報告 .....	94
<b>メディア掲載等 .....</b>	<b>95</b>
新聞掲載 .....	96
雑誌掲載 .....	98
テレビ取材 .....	101



ご挨拶

---

障害のある方々の大学進学が進む昨今「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（いわゆる「障害者差別解消法」）が施行（平成 28 年 4 月）されました。これにより、障害のある学生のニーズに応じた支援が法的に義務付けられ、支援体制の整備が全国的に急ピッチで進められています。特に聴覚障害のある学生の場合、大学の活動の核となる「授業」の音声情報そのものへのアクセスが困難な障害であるために、情報アクセシビリティの確保は大きな課題となっています。そしてその具体的な支援方法（情報保障）に関しては、パソコン等で音声を文字に変換して提示をする文字通訳による支援が、ようやく近年になり、全国的に徐々に普及しつつある状況です。しかしながら、聴覚障害学生の中でも、聾学校等で手話を身につけた聾学生にとっては、手話こそが母語であり、躍動感あふれる自然言語である手話による通訳での情報保障については、学生を手話通訳者として養成することが困難であることや、地域の手話通訳者が必ずしも学術的な内容の手話通訳に長けているわけではないことなどから、残念ながらまだまだ普及が進んでいないのが現状です。

そのような状況にありながらも、国立大学法人群馬大学では、聴覚障害学生の手話通訳ニーズに対応した支援を実施すべく、全国に先駆けて手話通訳による情報保障の体制整備を進めてまいりました。平成 16 年度に教育学部で聴覚障害学生への情報保障のために手話通訳者を全国で初めて職員採用したことに始まり、平成 17 年度には手話通訳技術のある職員採用を含む、障害学生支援に関する学内規定を全学的に整備し、そして現在、障害学生サポートルームには手話通訳技術のある職員と、聴覚障害当事者である職員が常駐し、群馬県内で活躍する手話通訳者の方々のご協力をいただきながら、手話通訳ニーズのある聴覚障害学生への情報保障に積極的に取り組んで、今日に至っております。

一方、群馬県は平成 27 年 3 月に全国の都道府県で 3 番目に手話言語条例を制定し、かつ、同年 12 月に前橋市でも同条例が制定されたことで、全国で初めて県と市の双方で同条例を制定した県となりました。さらには今年平成 30 年 3 月末には 14 ヶ所の市町村でも同条例が制定され、今や全国屈指の手話言語条例制定県となっております。また、その県条例においては聴覚障害児を対象とする学校における乳幼児期からの手話環境の整備等が記され、市町村条例においても学校における手話による支援が記されている自治体もあります。そうした自治体の動き対して、教員養成を行う機関である本学としましても、広く学生に手話についての知識と技術を教授していくとともに、特に特別支援学校教員を目指す学生には教育現場で活用できる確かな手話の技術の習得が求められているところです。

以上のことを背景とし、昨年度から群馬大学では、日本財団から助成を受け、群馬県との共同事業として、本事業に着手いたしました。二年目となる本年度は、研究員を増員し、日々の教育実践を活用しつつ、さらに質を高めるべく、手話の習得および手話通訳技術の習得のためのテキスト作成、カリキュラム開発といった研究にも取り組んでまいりました。また、群馬県のご理解、ご協力により、本事業における手話通訳養成修了者が全国手話通訳統一試験の受験資格を付与されることとなったことも、大きな前進です。こうしたこと 1 つ 1 つは、ひとえに関係者の皆様のご支援の賜物と思っております。その一年間の事業の成果をまとめたものが、本報告書になります。

来年度以降も、本事業は進めてまいります。引き続き、皆様方からのご指導、ご鞭撻、そしてご支援のほど、どうぞよろしく申し上げます。

群馬大学教育学部教授  
本プロジェクトリーダー  
金澤 貴之

## 事業概要

---



## 事業概要

### 1. 事業目的

今日「手話言語条例」が全国各地で制定されており、聴覚障害者が「手話で学ぶ」環境が一層促進され、さまざまな専門職への社会進出が求められています。そのため、大学等の学術分野に対応した手話通訳ができる人材養成の課題は、全国的に求められる、聴覚障害者支援の課題と考えられます。

そこで本事業では、学術レベルの手話通訳者養成の具体的施策として、これまでの本学の聴覚障害学生支援の基盤を活かしつつ、1) 大学における聴覚障害学生支援の手段として手話通訳が当事者のニーズベースで活用されるべく、学生支援者を手話通訳者として養成するシステムを全国的に浸透させること、2) 全国の地域で行われている手話通訳養成事業そのものについて、他の様々な福祉資格と同様に、大学での養成を可能とすることを目的とします。

また、本事業は、群馬県との共同事業として実施し、手話言語条例を制定している自治体と研究機関が連携していく全国的なモデルとなることを目指すとともに、大学で養成した手話通訳技能を有する者が地域で学術手話通訳者として活躍する、地域連携モデルとして広く全国に示すことを目指すものでもあります。

### 2. 事業内容

本事業では、主として以下の4点について実施することで、自治体が制定した手話言語条例への学術機関としての貢献として、手話通訳者の養成、技術の質の向上を図るとともに、高等教育機関における聴覚障害学生の手話通訳ニーズへの対応の充実を目指してまいります。

- 1) 学生に対する学術手話通訳のための授業の開催
- 2) 地域通訳者に対する学術手話通訳の研修
- 3) 学術手話通訳養成カリキュラムの開発
- 4) 情報発信

具体的には以下の7点について実施することとした。

- 1) 教養科目（1年生）
  - ① 総合科目：「手話とろう文化」（前期）、「手話と情報アクセシビリティ」（後期）
  - ② 人文科学科目：「言語としての日本手話」「言語としての日本手話実践」経験者クラス、未経験者クラスのそれぞれについて、前期、後期各週2コマ
- 2) 教育学部共通科目（2年生）
  - ・ 総合探求科目（実践的指導力）：「日本手話と日本語の違いを学ぶⅠ」（手話通訳養成講座基本コース相当）、「日本手話と日本語の違いを学ぶⅡ」（手話通訳養成講座応用コース相当）  
（開放専門科目として他学部へ開放、学部内の他専攻は選択科目に）
- 3) 教育学部専門科目（障害児教育専攻）（3年生、4年生）
  - ・ 「聴覚障害教育演習C」（手話通訳養成講座実践コース相当）  
（開放専門科目として他学部へ開放、学部内の他専攻は選択科目に）
- 4) 授業以外の学びの場として：学内で開催される手話サロン・手話ランチの活用。他機関が行う

聴覚障害児・者及びろう重複児・者向けの行事等にボランティアとして参加を促す。

- 5) 地域通訳者向け研修…「聴覚障害教育演習C」及び「松岡和美先生研修会・講演会」を地域の手話通訳者向けの研修として開放（群馬県を通じて募集）。
- 6) 日本手話指導のための「教科書」作成及びそのための日本手話の文法の体系化、学術手話通訳養成カリキュラムの開発
- 7) 情報発信
  - 1) 公開講座「学術手話通訳に対応した通訳者の養成研修会」、「松岡和美先生研修会・講演会」、「手話で学ぼう学」
  - 2) シンポジウムを年一回開催
  - 3) 日本手話の「教科書」の試作版の配布（シンポジウム内にて発表・配布）
  - 4) ホームページ・SNS で情報発信

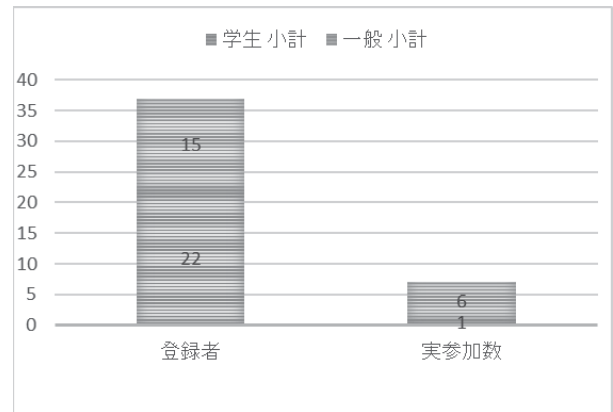
### 3. 事業目標

- ・ 学生の養成については、1) 日常会話レベルの手話技能習得者を年間 200 名以上養成、2) 発表等を自ら手話で行える技能習得者を年間 50 名以上養成、3) 学術的な手話通訳が可能な者を年間 20 名以上養成する。うち、3) は 4 年間のカリキュラム終了時の達成目標であるため、2020 年度から評価する。
- ・ 手話習得や手話通訳に関するテキスト・教材・カリキュラムを作成する。
- ・ 大学で手話通訳の養成ができる制度的枠組みの実現に向けた交渉・意見交換を行う。
- ・ 地域手話通訳者について、学術通訳可能な技能の習得者を年間 20 名養成する。

# H30 年度 手話サロン&手話ランチ

## ① 登録者&サロン実参加数

荒牧		登録者	実参加数
学生	聴学生	19	1
	聴障学生	3	0
	小計	22	1
一般	聴者	3	2
	聾者	2	0
	教職員	10	4
	小計	15	6
合計		37	7



※手話サロンは荒牧のみ開催。

※前期と後期、どちらも受けた人は一人として計算。

## ② サロン&ランチ実参加数

荒牧	聴学生	聴障学生	一般聴者	一般ろう者	教職員
両方参加	0	0	0	0	0
サロンのみ	1	0	2	0	4
ランチのみ	10	2	0	1	3
合計	11	2	2	1	7

## ③ 実施数&参加数

### <手話サロン>

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	実施数合計
サロン日数	0	0	5	0	0	0	0	8	2	0	2	1	18
サロン参加	0	0	12	0	0	0	0	19	3	0	3	2	39
A	日数	0	0	3	0	0	0	8	2	0	2	1	16
	参加	0	0	8	0	0	0	19	3	0	3	2	35
B	日数	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	参加	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4

※A は初級クラス、B は中級クラス。

### <手話ランチ>

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	実施数合計
ランチ日数	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
ランチ参加	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20
参加	聴者	0	0	14	0	0	0	0	0	0	0	0	14
	ろう者	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	6

※時間は昼休み時間(11:50~12:40)。

※聴者は聴学生、一般人、教職員。ろう者はろう・難聴学生、協力(外部)ろう者。

※担当者(古川)は参加人数に含まれない。

本事業に関する講義のカリキュラム(2018年度)

		教養 (総合科目)	教養(人文科学科目)				学部 (共通)	学部 (障教専門)
1 年次	前期	手話とろう文化	言語としての日本手話A I(経験者クラス)	言語としての日本手話実践A I(経験者クラス)	言語としての日本手話B I(未経験者クラス)	言語としての日本手話実践B I(未経験者クラス)		
	後期	手話と情報アクセシビリティ	言語としての日本手話A II(経験者クラス)	言語としての日本手話実践A II(経験者クラス)	言語としての日本手話B II(未経験者クラス)	言語としての日本手話実践B II(未経験者クラス)		
2 年次	前期						日本手話と日本語の違いを学ぶI(手話通訳養成基本コース相当)	
	後期						日本手話と日本語の違いを学ぶII(手話通訳養成応用コース相当)	
3 年次	前期							
	後期							聴覚障害教育演習C(手話通訳養成実践コース相当)

\*「聴覚障害教育演習C」は学術手話通訳研修講座として、地域の手話通訳者に公開

○受講者数(履修登録者数)

- ・手話とろう文化：109名
- ・手話と情報アクセシビリティ：66名
- ・言語としての日本手話A I：19名
- ・言語としての日本手話B I：16名
- ・言語としての日本手話A II：19名
- ・言語としての日本手話B II：1名
- ・日本手話と日本語の違いを学ぶI：18名
- ・日本手話と日本語の違いを学ぶII：17名
- ・聴覚障害教育演習C：1名

※授業構成の詳しい紹介はこのあとのページ(『2018年度版 日本財団助成「学術手話通訳に対応した通訳者の養成」事業パンフレット』6-9pより引用)に記載します。

# 「手話通訳者」になるまでのフローチャート

## 手話奉仕員 養成講座

意思疎通支援事業の一つであり、市町村の必須事業でもある。  
手話のできる者（手話奉仕員）を養成する事業であり、住民が手話を本格的に学ぶための講座。  
厚生労働省認可のカリキュラムに則って実施される。  
入門課程と基礎課程があり、これらを修了することで、都道府県等が実施している手話通訳者養成講座を受けることができる。

- 入門課程（1年）
  - 基礎課程（1年）
- 【市町村必須事業】

## 手話通訳者 養成講座

意思疎通支援事業の一つであり、県及び政令指定都市、中核市の必須事業。  
「手話通訳」の技術を有する「手話通訳者」を養成する事業である。受講条件が、手話奉仕員養成講座を修了した者、ろう者との手話での会話が可能な者としている。  
厚生労働省認可のカリキュラムがあり、基本課程、応用課程、実践課程すべての課程を修了した者が、手話通訳者となるための試験を受けることができる。

- 基本課程（1年）
  - 応用課程（1年）
  - 実践課程（1年）
- 【都道府県、政令指定都市、中核市の必須事業】

手話通訳者全国統一試験受験資格

## 手話通訳者 試験

手話通訳者になるための試験について、群馬県では下記のとおり実施している。

- **手話通訳者全国統一試験**  
社会福祉法人全国手話研修センター主催の全国共通の試験。毎年12月に実施。  
群馬県内で受験する場合、群馬県聴覚障害者コミュニケーションプラザにて実施。
- **群馬県手話通訳者認定試験**  
群馬県聴覚障害者コミュニケーションプラザで実施している試験。  
手話通訳者全国統一試験に合格した者が受験する。

全国手話通訳者統一試験が一次試とすると、この試験は二次試験に相当する。  
統一試験および認定試験両方を合格した場合、群馬県知事の認定を受けて「手話通訳者」として活動することができる。

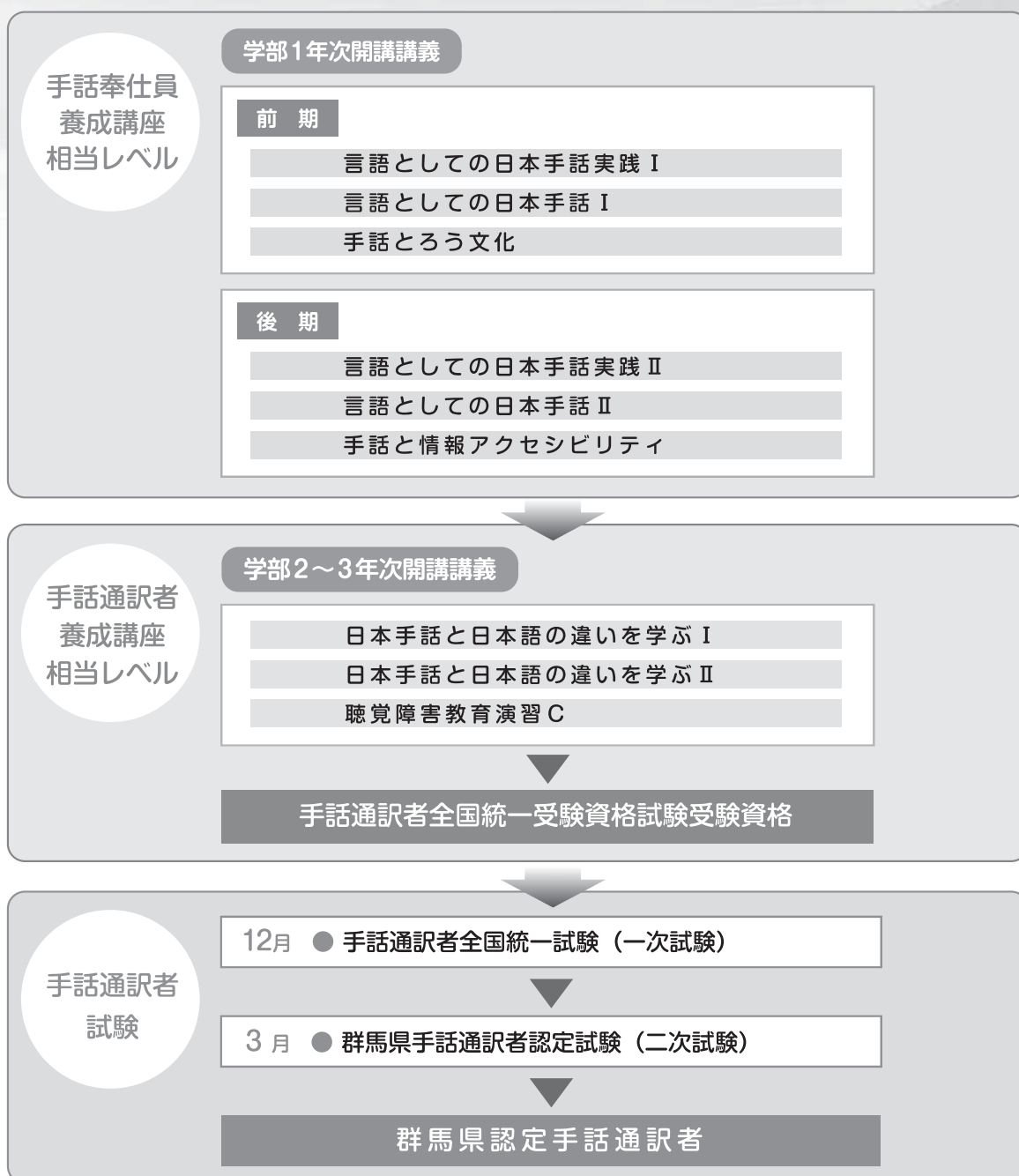
※手話を学び始めてから手話通訳者養成カリキュラム修了まで、最短で5年。  
しかし、手話通訳者試験に合格できる者は、極めて少ない。

12月 ● 手話通訳者全国統一試験（一次試験）

3月 ● 群馬県手話通訳者認定試験（二次試験）

群馬県認定手話通訳者

# ■群馬大学における手話サポーター養成カリキュラム



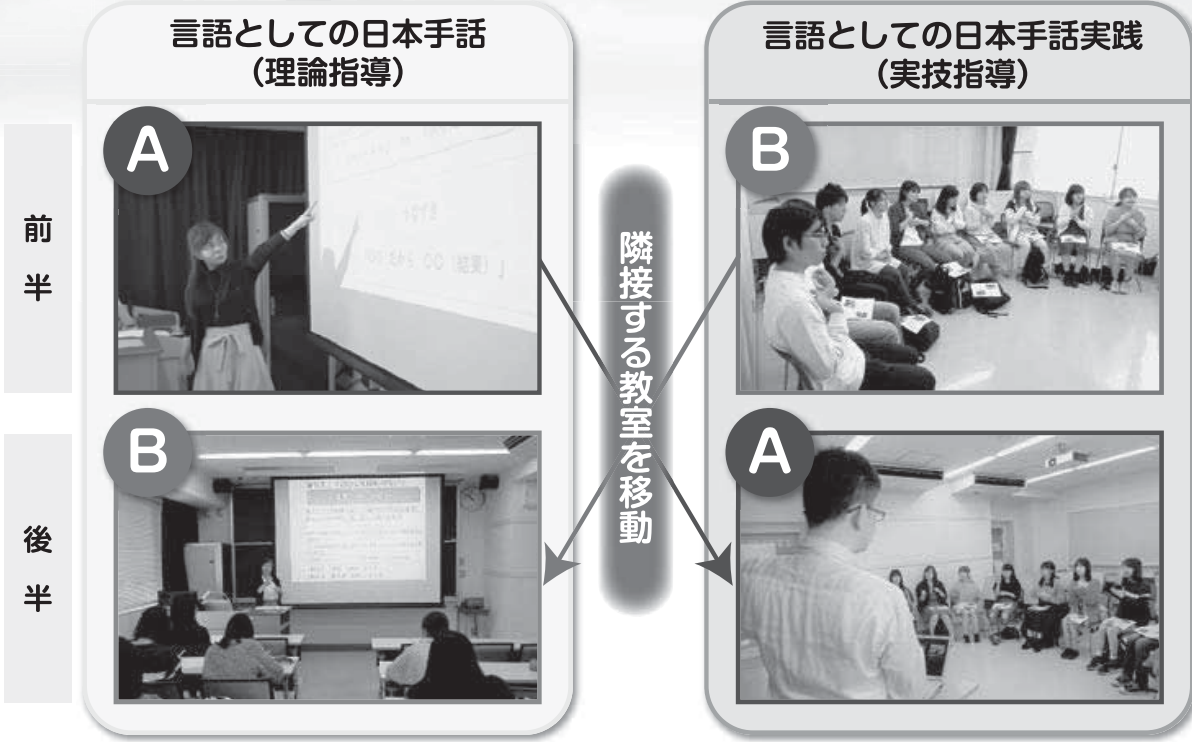
〈参考〉

## ※手話通訳士とは？

- ・厚生労働大臣認定の資格であり、毎年10月に手話通訳士試験が実施される。  
(実施主体：社会福祉法人聴力障害者情報文化センター)
- ・合格者は「手話通訳士」として、手話通訳の活動を行うことができる。
- ・手話通訳者と違って裁判、政見放送等の手話通訳活動が可能である。
- ・群馬県では知事の認定を受けなければ活動はできない。

# 1年生の講義

受講生約20名×2クラス



受講生約100名



\*手話を第一言語とするろう者が持つ文化

# ■ 2年生の講義と1週間のスケジュール

受講生約 20 名

講義名「日本手話と日本語の違いを学ぶⅠ」（手話通訳者養成基本コース相当）

前の週の課題の確認をしながら、通訳技術を学んでいます。



2人ペアになって手話の動画を撮影し合って、気づいたことをコメント。  
「“顔き”のタイミングが上手！」等、相手の良いところを見つけます。

	月	火	水	木	金	土日
第1週				講義日	課題提出①	課題の練習
第2週	課題提出②		課題提出③	講義日		

課題の多くは音声を聞いて手話を表出する、「聞き取り通訳」。  
課題は、クラウド上で管理。  
週3回の課題をこなすことで、2日に1回、手話に触れる時間を確保できます。  
最初は恥ずかしがっていても、ビデオ撮影にだんだん慣れてきます。



撮影中。  
順番待ちの人が後ろで練習をしています。



動画を見ながら手話の練習中。  
ときには和気あいあいとおしゃべりも。







## 実績等

---

## 2018年度 講座・研修会・パンフレット等一覧

### 1. 講座・研修会

2018年12月1日(土) 12月25日(火)・12月26日(水)

学術手話通訳に対応した通訳者の養成研修会 開催

2019年2月9日(土)～2月10日(日)

松岡和美先生研修会・講演会 開催

2019年2月16日(土)

群馬大学公開講座「手話で学ぼう者学」 開催

2019年2月17日(日)

「学術手話通訳に対応した通訳者の養成」事業

～手話に関する教育施策と学術機関の関わり方～ シンポジウム 開催

### 2. パンフレット等

2018年12月

2018年版「学術手話通訳に対応した通訳者の養成」事業パンフレット 作成

2019年2月

手話テキスト『やってみよう 日本手話①(試作版)』 作成

著者：下島恭子 能美由希子 川端伸哉 二神麗子

監修：金澤貴之

## 2018年度 第13回全国手話検定試験 群馬大学合格者

級	1年生			2年生			3年生			4年生			大学院・専攻科			合計
	受験者 (人)	合格者 (人)	合格率 (%)	受験者 (人)	合格者 (人)	合格率 (%)	受験者 (人)	合格者 (人)	合格率 (%)	受験者 (人)	合格者 (人)	合格率 (%)	受験者 (人)	合格者 (人)	合格率 (%)	
2級				9	9	100				1	1	100				10
3級	1	1	100	2	2	100							3	3	100	6
4級	15	15	100	1	1	100							5	5	100	21
5級	2	2	100													2
合計	18	18	100	12	12	100				1	1	100	8	8	100	39

(受験者数：39名 合格者数：39名 合格率：100%)

## 特集 群馬大学手話サポーター養成プロジェクト



手話言語条例が全国各地で制定され、聴覚障害者の様々な専門職への社会進出が求められているものの、学術レベルの手話通訳が可能な人材は不足しています。

群馬大学では、2017年度から手話通訳者養成における大学と地域の連携モデルを構築することを目指し、**教育学部・金澤貴之教授**をリーダーとして、群馬県と共同で手話サポーター養成プロジェクトを推進しています。

# プロジェクトにいたる背景

## ～聴覚障害のある学生を取り巻く現状～



### 聴覚障害のある学生の授業環境

現在、障害のある方々の大学進学が進む中で、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（いわゆる「障害者差別解消法」）が2016年4月に施行されたことにより、障害のある学生のニーズに応じた支援が法的に義務付けられ、支援体制の整備が全国的に急ピッチで進められています。特に聴覚障害のある学生の場合、大学の活動の核となる「授業」の音声情報そのものへのアクセスが困難であるため、情報アクセシビリティの確保は大きな課題となっています。そしてその具体的な支援方法（情報保障）については、パソコン等で音声を文字に変換して提示をするという、文字通訳による支援が、ようやく全国的に徐々に普及しつつある状況です。しかし、聴覚障害学生の中でも、ろう学校等で手話を身につけたろう学生にとっては、手話こそが母語であり、躍動感あふれる自然言語ではあるものの、手話による通訳での情報保障については、学生を手話通訳者として養成することが困難であることや、地域の手話通訳者が必ずしも学術的な内容の手話通訳に長けているわけではないことなどから、残念ながら普及が進んでいません。

### 群馬県の動向と大学の取組むべき課題

一方、群馬県は2015年3月に全国の都道府県で3番目に手話言語条例を制定し、かつ、同年12月に前橋市でも同条例が制定されたことで、全国で初めて県と市の双方で同条例を制定した県となりました。さらには2018年10月現在、14ヶ所の市町村でも同条例が制定され、今や全国屈指の手話言語条例制定県となっています。

また、その県条例においては聴覚障害児を対象とする学校における乳幼児期からの手話環境の整備等が記され、市町村条例においても学校における手話による支援が記されている自治体もあります。そうした自治体の動きに対して、教員養成を担う本学としても、広く学生に手話についての知識と技術を教授していくとともに、特に特別支援学校教員を目指す学生には教育現場で活用できる確かな手話の技術の習得が求められています。

このような社会的背景から、聴覚障害者が「手話で学ぶ」環境が一層促進され、さまざまな専門職への社会進出が求められているといえます。そのためにも、大学等の学術分野に対応した手話通訳ができる人材養成は、全国的に求められる、聴覚障害者支援の課題です。

### 群馬大学の支援体制

そのような状況において、群馬大学では、聴覚障害学生の手話通訳ニーズに対応した支援を実施すべく、全国に先駆けて手話通訳による情報保障の体制整備を進めてきました。2004年度に教育学部で聴覚障害学生への情報保障のために全国で初めて手話通訳者を職員採用したことに始まり、2005年度には手話通訳技術のある職員採用を含む、障害学生支援に関する学内規定を全学的に整備し、そして現在、障害学生サポートルームには手話通訳技術のある職員と、聴覚障害当事者である職員が常駐し、群馬県内で活躍する手話通訳者の方々のご協力をいただきながら、手話通訳ニーズのある聴覚障害者への情報保障に積極的に取り組んでいます。



## 日本手話を学ぶということ

「手話」とは、耳が聞こえない「ろう者」同士が用いている視覚言語です。そして音声言語が国によって異なり、日本語、フランス語、中国語などがあるように、手話もまた国によって異なり、日本手話、フランス手話、中国手話などがあります。日本のろう者が、ろう者同士で話す時に用いる日本手話は、音声日本語とは同期せず、語順も異なります。例えば、「何?」「どこ?」などのWH疑問詞は、日本手話では文末に置かれます。さらに、手話は手だけで表現されるものではなく、眉や顎、目線の動きや口形などが文法的な機能を果たすことも近年明らかにされてきています。「あなたはどこで本を買いましたか?」という文であれば、日本手話の基本文型はSOV（主語—目的語—動詞）で、WH疑問詞は文末に来ますから、「あなた／本／買う／どこ」の語順で手話単語が並びます。そして疑問表現として、文末で眉上げつつ顎を動かします。このように、明確なルールがあります。つまり、音声言語と同様に、完成された統語構造をもつ独立した言語であることが、現在は様々な学問的知見によって示されています。その一方で、手話は長い歴史の中で誤解され続けてきました。聴覚障害児教育の歴史の中では、「身振りのようなもの」であり、「不完全なもの」だと言われ続けてきました。また現在でも、多くの人たちの間では、音声言語に手話単語をつけて話すものが手話であると誤解され続けています。

日本手話が、日本のろう者で用いられている自然言語である以上は、手話を学ぶ際には、英語や他の外国語を学ぶのと同様に、文法の理解も必要ですし、言語習得理論に則った会話の学習も重要になります。だからこそ、学術機関である大学で、手話言語学等の学術的成果を踏まえた授業を用意する必要がありますし、体系だったカリキュラムを用意する必要があります。

# 群馬大の先進的な取組み

## 手話サポータープロジェクトの立ち上げ

群馬大学では、教育学部の金澤貴之教授を中心に、群馬県との共同事業として、2017年度から日本財団助成「学術手話通訳に対応した通訳者の養成」事業（手話サポーター養成プロジェクト）を立ち上げました。本事業では、高等教育機関における聴覚障害学生の手話通訳ニーズへの対応の充実を目指しています。学術レベルの手話通訳者養成の具体的施策として、これまでの本学の聴覚障害学生支援の基盤を活かしつつ、4年間の養成カリキュラムを通して手話通訳が可能な学生（手話サポーター）の養成を行いつつ、地域の手話通訳者（有資格者）のための高等教育機関向け手話通訳研修を行っています。

また本事業は、大学で養成した手話通訳者が地域で「学術手話通訳者」として活躍する、地域連携モデルとして広く全国に示すことを目指します。



## プロジェクトの概要と取組み

プロジェクトの主な取組みをご紹介します。

### 1) 学生向けの手話通訳者養成

- ①学部1年生向けに手話習得のための講義の大幅な新規開設。
- ②2年生～3年生向けに手話通訳技術を身につけるための講義を開設（厚生労働省のカリキュラムに準拠）。
  - ・本講座修了の学生は、群馬県の認定により、全国手話通訳統一試験の受験資格を付与。統一試験に合格し、群馬県の試験にも合格すれば有資格者に。
  - ・課程修了後、4年次に「手話サポーター」として聴覚障害学生の支援者として活動。

### 2) 地域貢献

- ①地域の手話通訳者向けに学術手話通訳養成研修講座を開講
- ②公開講座「手話で学ぶ手話学（ろう者学）」の開講
- ③シンポジウムを年一回開催

### 3) 研究開発

手話指導および手話通訳養成のためのテキスト・カリキュラムの開発

このような取組みを行っていくことで、本学における学術手話通訳者の育成のみならず、全国の大学で同様の取組みが広がり、手話通訳養成が進んでいくことが期待されます。







## 学術手話通訳に対応した通訳者養成研修会

---

2018年12月1日(土)

2018年12月25日(火)

2018年12月26日(水)

開催

## 学術手話通訳に対応した通訳者養成研修会

### 講義日程・担当講師紹介

群馬大学にて、地域で活動されている手話通訳者の技術の質の向上を目指し、さらに高等教育機関における聴覚障害学生の手話通訳ニーズへの対応へつなげるため、昨年度に引き続き、学術手話通訳の専門家をお招きし、研修会を開催しました。なお、本研修会は、群馬県との共同事業として開催されました。

少人数の講義だったため、きめ細やかな指導が受けられ、受講した通訳者からは大変好評をいただきました。

#### 1. 講義日程

- ①12月1日（土）8時40分～17時30分（90分×5コマ）
- ②12月25日（火）8時40分～17時30分（90分×5コマ）
- ③12月26日（水）12時40分～17時30分（90分×3コマ）

#### 2. 担当講師紹介

##### ① 12月1日（土）

講師：宮原麻衣子氏（国立障害者リハビリテーションセンター学院手話通訳学科元教官）  
豊富な大学の講義や学会等での学術手話通訳経験および手話通訳者養成指導経験有。渋川市出身。

##### ② 12月25日（火）

講師：中野聡子氏（大阪大学キャンパスライフ健康支援センター相談支援部門講師）  
主著『大人の手話 子どもの手話 -手話にみる空間認知の発達-』明石書店  
学術手話通訳研究の第一人者。今年、大阪大学主催、関西地域の大学・機関共催により、「学術手話通訳のための実践セミナー」を開催（全3回）。

##### ③ 12月26日（水）

講師：白澤麻弓氏（筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター准教授）  
主著『日本語-手話同時通訳の評価に関する研究』風間書房  
PEPNet-Japan（日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク）事務局長として、全国の聴覚障害学生支援をリードしている。

## 2018(平成30)年度「学術手話通訳に対応した通訳者養成研修会」アンケート結果表

講義名：学術手話通訳に対応した通訳者養成研修会

回収率：53.8%（受講者のべ13名，回答者のべ7名）

○ご年齢

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	合計
0人	1人	0人	3人	0人	3人	0人	7人

○通訳派遣頻度

0回/週	0.5回/週	3～4回/週	5回/週	無回答	合計
1人	1人	2人	2人	1人	7人

○手話通訳士資格

あり	なし	無回答	合計
2人	3人	2人	7人

○大学の授業での手話通訳経験

あり	なし	無回答	合計
4人	2人	1人	7人

○本研修会を何で知りましたか（複数回答可）

群馬県登録手話通訳者向けに配布されたチラシ	チラシ(配布場所：群馬大学)	facebook等のインターネット媒体	群馬大学ホームページ	知人等	その他(未記入)	合計
4人	2人	0人	0人	0人	1人	7人

○宮原麻衣子先生の研修会の内容は理解できましたか

理解できた	ある程度理解できた	理解できなかった	合計
2人	0人	0人	2人

○感想等（宮原麻衣子先生講義について）

- ・利き手が動くことやろう者は話が長いなど改めて知ることができました。通訳者として必要なこともたくさん学ぶことができとても有意義な時間でした。通訳の必要の人の聴こえのレベルや手話の理解のレベルに合わせて表出することが大切だと学ぶことができました。
- ・日本手話と対応手話の違いについて勉強になりました。

○中野聡子先生の研修会の内容は理解できましたか

理解できた	ある程度理解できた	理解できなかった	合計
1人	0人	0人	1人

○感想等（中野聡子先生講義について）

- ・資料を読み込む大切さや、指差しなどの活用の有効性など細かいところまでアドバイスを頂くことが出来て参考になりました。難しい内容でしたが、ロールプレイの後に撮影したものを振り返りを行うことが出来たので自分の手話の動きなども確認ができ、いい点も悪い点もいろいろな気づきがありました。

○白澤麻弓先生の研修会の内容は理解できましたか

理解できた	ある程度理解できた	理解できなかった	合計
3人	0人	0人	3人

○感想等（白澤麻弓先生講義について）

- ・昨年も受講させていただきました。都合で受けられないところもあったのですが、2度目ということもあり、前回よりは理解できたのではないかと思います。力不足でなかなか思うように通訳できないということもありますが、受け手がどう感じ、どんな要望を持っているのかを知ることが大切だと思いました。
- ・話の内容が非常に興味深く面白かったです。海外の手話通訳の事情など、なかなか聞くことができない話だったので、もっとたくさん人に聞いてほしい話だと思いました。
- ・日本で外国の取り組みを少しずつでも取り入れていき、通訳養成の方法なども変わっていくと通訳者も増えるのかな？という期待が持てました。

○研修会までの交通手段について

自家用車	電車・バス	自転車・徒歩	その他	合計
7人	0人	0人	0人	7人

○研修会の開催時期について

適当である	10～11月	無回答	合計
4人	1人	2人	7人

○研修会の時間について

適当である	無回答	合計
5人	2人	7人

○研修会の開催曜日について

平日が良い	土曜日が良い	日/祝日が良い	無回答	合計
1人	1人	3人	2人	7人

○研修会の開始時間について

適当である	無回答	合計
5人	2人	7人

○本研修会に関するご意見・ご感想・学術手話通訳者養成事業に関するご要望等

- ・群馬県の通訳者は100人以上いるが参加者3人は少なすぎだと思いました。  
今回の研修で学んだ事を地元の通訳者に伝えたいと思います。
- ・とても分かりやすくアットホームな雰囲気の良い研修会でした。  
はじめて、群大の研修に参加したので、駐車に関してわからず、無断駐車のような紙を置かれてしまいました。
- ・受講者が少なく残念でした。「学術手話通訳」という言葉に参加を躊躇してしまうのではないかと思います。
- ・もっとたくさんの人に受講して頂きたかったので、次回開催の時には呼びかけたいと思います。

平成 30 年度

## 「学術手話通訳に対応した通訳者養成研修会」のお知らせ

群馬大学では、平成 29 年度から日本財団から助成を受け、群馬県との共同事業として「学術手話通訳に対応した通訳者の養成」事業を始めています。

本事業の一環として、群馬大学にて地域で活動されている手話通訳者の技術の質の向上を目指し、さらに高等教育機関における聴覚障害学生の手話通訳ニーズへの対応へつなげるため、昨年度と同様、学術手話通訳の専門家をお招きし、研修会を開催します。

参加ご希望の方は、裏面申込用紙にご記入の上、メールまたは FAX でお知らせください。

**日程・講師**（詳しい時間帯については裏面をご覧ください）

- ① 12 月 1 日（土）（90 分×5 コマ）  
講師：宮原麻衣子氏（国立障害者リハビリテーションセンター学院手話通訳学科元教官）  
豊富な大学の講義や学会等での学術手話通訳経験および手話通訳者養成指導経験有。渋川市出身。
- ② 12 月 25 日（火）（90 分×3 コマ）  
講師：中野聡子氏（大阪大学キャンパスライフ健康支援センター相談支援部門講師）  
主著『大人の手話 子どもの手話 -手話にみる空間認知の発達-』明石書店  
学術手話通訳研究の第一人者。今年、大阪大学主催、関西地域の大学・機関共催により、「学術手話通訳のための実践セミナー」を開催（全 3 回）。
- ③ 12 月 26 日（水）（90 分×3 コマ）  
講師：白澤麻弓氏（筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター准教授）  
主著『日本語-手話同時通訳の評価に関する研究』風間書房  
PEPNet-Japan（日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク）事務局長として、全国の聴覚障害学生支援をリードしている。

- ◆ 対象者：群馬県登録手話通訳者
- ◆ 場所：群馬大学荒牧キャンパス教育学部 B 棟 102 教室
- ◆ 定員：25 名（応募者多数の場合は先着順とします）
- ◆ 申込方法：裏面をご覧ください。

主催：群馬大学      共催：群馬県      助成：日本財団

# 平成 30 年度 「学術手話通訳に対応した通訳者養成研修会」

## 申込用紙

### 【講義スケジュール】

日にち	講師名 (敬称略)	8:40 -10:10	10:20 -11:50	12:40 -14:10	14:20 -15:50	16:00 -17:30
12月1日(土)	宮原	●	●	●	●	●
12月25日(火)	中野	●	●	●		
12月26日(水)	白澤			●	●	●

※全日程参加が望ましいですが、1日間あるいは2日間の参加でも構いません。

※ただし、講義が始まったあとの途中入室・途中退室はお控えください。

①氏名(ふりがな): \_\_\_\_\_

②お住まいの地域: \_\_\_\_\_ 市・町・村

③手話通訳活動歴: 約 \_\_\_\_\_ 年

④連絡先 電話: \_\_\_\_\_ FAX: \_\_\_\_\_

⑤メールアドレス: \_\_\_\_\_

⑥参加希望日(参加を希望される日を○で囲んでください)

全日程(3日間) / 12月1日 / 12月25日 / 12月26日

### 申込方法

必要事項を記載して、メールまたはFAXで下記問い合わせ先までお申し込みください。

メールの場合、件名に「平成30年度学術手話通訳研修会参加申込」と記載の上、

本文に上記①～⑥の必要事項を記入してお送りください。

### 問い合わせ先

日本財団助成事業 群馬大学手話サポーター養成プロジェクト室

(〒371-8510 群馬県前橋市荒牧町4丁目2番地 群馬大学荒牧キャンパス教育学部B棟106)

担当者: 二神・川端

Email: [r.futagami@gunma-u.ac.jp](mailto:r.futagami@gunma-u.ac.jp) もしくは [kaede.kawa@gunma-u.ac.jp](mailto:kaede.kawa@gunma-u.ac.jp)

電話: 027-220-7157 FAX: 027-220-7390

※お問い合わせはできるだけメールもしくはFAXでお願いいたします。

## 松岡和美先生 研修会・講演会

---

研修会 2019年2月 9日(土)

2019年2月 10日(日)

講演会 2019年2月 10日(日)

開催



## 手話言語学の基本を学ぼう： 音韻と形態

松岡和美  
2019年2月9日

### 手話使用者のタイプ

	親		聴
	ろう		
子	DofD (ネイティブサイ ナー)	DofH (アーリー、レイト、 手話習得せず等)	
	聴	コーダ	聴者

### DofH (Deaf of Hearing)

手話を使わない聴の親のもとで育つたろう者  
「難聴者」「聴覚障害者」という呼称を使用する人も多い

使用言語は人それぞれ

- ・ 早期手話話者 (アーリーサイナー)
- ・ 後期手話話者 (レイトサイナー) 日本語対応手話の使用者が多い
- ・ 手話習得なし (口話・筆談)

### DofD (Deaf of Deaf) デフファミリー出身

親がろう者、本人もろう者

生まれた時から日本手話→日本手話を母語とするネイティブサイナー

言語的・文化的少数者 (「ろう文化を持つろう者」)

### 人間言語の特性：二重分節性 (階層性)

小さなものが規則に沿って集まり、固まりを作る

○ × ◇ △

○ × ◇ △

### ミニマルペア

音素：弁別性を持つ (単語の意味を変える)

弁別性を持つ音を見分ける方法 → ミニマルペアを作る

[ame] → [ane] (鉛→姉)

[kasa] → [kata] (傘→肩)

[ami] → [ame] (網→鉛)

### 日本手話のミニマルペア

- ・ 位置 /なるほど/ ⇔ /黄色/ /たとえば/ ⇔ /会員/ /献す/ ⇔ /おかしい/
- ・ 手型 /遊び/ ⇔ /会社/ /公開/ ⇔ /社会/ /効果/ ⇔ /無視/
- ・ 手のひらの向き /上手/ ⇔ /流れ/ /一縷/ ⇔ /金う/
- ・ 動き /予定/ ⇔ /受付/ /バス/ ⇔ /いつも/ /試合/ ⇔ /相談/

### 意味が変わるかどうかが重要

意味の区別に関係がない部分 → 異音 (手話の音韻と考える必要はない)

### 手話音韻論の発展

ストーカーの手話記述法  
(手話表現とジェスチャーが違うことの発見)

→

手話表現に「続きの連続性があることをとらえた分析 (MHEモデル)

→

保持 (H) よりも位置 (L) に注目し、階層を用いるモデル (Hand-Tierモデル, Prosodyモデル)

### ストーキー一法 (Stokoe 1960, Stokoe et al. 1965)

「位置 (Tab)」「手の形 (Dez)」「動き (Sig)」の3つの要素

Figure 15



Valli et al. (2011)

### 音韻変化の例 (日本手話) 38ページ



/知識/



/ゼロ/



/無知/

### 指文字が入った手話表現 40~41ページ

- ・短い動きが小刻みに繰り返される
- ・例: /ムリ/ (指文字の「ム」「リ」が合わさった手型)

/ムダ/

/スル/

かなの「指文字」を並べる場合: 特別な動きはない

### 日本手話における保持の消失



### 手話の複合語 (日本手話) 39ページ

#### 意味の変化

(別の意味が追加される・変化する)

- ・本+建物 → 図書館
- ・家+女性 → 主婦
- ・目+安い → 不注意
- ・舌+安い → 味音痴

### CLとは

存在・移動を示す動詞に組み込まれる、意味を持った形態素 (意味のないユニットに分割できない)

情景や人・物の描写に用いられる

表現する対象の形態や意味カテゴリで形が決まっている

非利き手で「背景」利き手で「主体」が同時に表される

CL動詞の形態分析は進んでいない

### 複合語(「語」+「語」)の特徴 37~38ページ

- ・主要部が右側にある (右側主要部原則)  
ハチミツーミツバチ ガラス窓一窓ガラス
- ・意味の変化をともなうことがある  
黒板 甘栗 腕比べ 暗室 口先
- ・音の変化をともなうことがある  
アクセントの変化(「アルバイト学生」「恋心」)  
連濁 (「つりざお(釣竿)」「ほんだな(本棚)」)

### 手話単語に組み込める数字 40ページ

アメリカ手話:

1~9までの数字 (Rule of 9)

日本語:

- ・1~10, 10の倍数(20・30・40・・・)
- ・数字が組み込まない場合→「数字+単位」  
例: /15//年/
- ・小さい数字(1~5など)が好まれる傾向

19

### CLの分類

- ・実体CL (Whole Entity)
- ・SASS (形状・大きさ)  
形をなぞるCL (トレースCL)は動詞に組み込まないので別扱い
- ・操作CL (Handling)

20

### 人を表すCL

(男性) (女性) (男性) (女性)

21

### 乗り物を表すCL

(車) (自転車) (飛行機) (場所を表すCL)

22

### CL動詞 (depicting verbs)

出来事や物体や動きの様子がCLで表現される

(ドアを開く) (窓を開く)

(図・赤堀 2011)

23

### CL動詞

子どもが集まってくる様子

24

### CL表現(2): 形状・大きさ (SASS)

(黒いもの) (黒いもの) (黒いもの)

(図・赤堀 2011)

25

### CL表現(3): 操作 (Handling) CL

動作の対象となる物体 (の一部) や道具を動作主が操作する様子

(ドアを開く) (窓を開く)

26

### フローズン語彙 (名詞)

a. / 鍵 / b. / 駅 /

27

### フローズン語彙

(12) a. 鍵/ 操作CL「鍵を回して開錠する」  
b. 駅/ (実体CL+操作CL)  
「改札はさみを使って切符を切る」

- ・現在には使われない道具
- ・手話表現に変更なし

→ 「状況の描写」のCLでは  
ない

## レイトサイナー(後期習得者)のCL

- ・CL動詞を変化させないで使う
- 半円を描く動き／巡回する動きが次落(単純な一本線の動き)  
(階段などで上に転んだ場合でも)下への単調な動き



## 引用RS

過去の自分や、他の人の思考や感じ方などを表現

(14)

/PT1 昔 [EPRRS PT1 英語 勉強 つまらない 勉強 目的 英語  
NEG-4 かまわない 日本 住む かまわない 同じ かまわない] 成  
長 外国 行く [EPRRS ホテル 筆談 NEG-4] [EPRRS 英語 必要 NEG-  
3] 思う] 勉強 始める 意味/

## 言語の創造性

- ・今までになかった表現を作り出して使用できる
- ・同じ母語話者ならその意味が即座に理解できる

創造性がある

→その言語は例文のリストではない  
新しい表現を生み出す力を持つ

## ロールシフト・レファレンシャルシフト(RS)

文脈に登場する人物の役割を表現する

直接引用とは異なる

(実際の発言だけではなく)思考の描写も可能  
第三者の視点から状況の描写も可能

2種類:行動RSと引用RS(木村2011)

## 複数の視点を同時に表現

/PT1 仕事 面接 行く CL^座る 男 [RS CL^3見る1]/

(仕事の面接に行ったら相手の男性が無愛想にじろじろ自分を  
見ていやな感じだった。)

面接官の視線:CL

自分の気持ち:引用RS

## 手話語り・手話ポエム

- ・ろう者の歴史と文化を次世代に伝える手段
- ・ろう者の舞台芸術(プロの手話手が行う)
- ・ろう児や手話学習者のための教室活動

## 行動RS

別の人の身体の動かし方や話し方、顔の表情など、実際にあった  
場面そのまま再現する

/昨日 PT1 頭 痛い 病院行く CL^座る 待つ 3呼ぶ [RS (立ち上が  
る)] 歩く

## 手話語り・手話ポエムと言語の創造性

ろう者の文化や言語を伝える手段  
(ネイティブサイナーを中心とするコミュニティ)

- ・語り手自身の視点
- ・CLを含む独特な手話表現

人間言語の特徴のひとつ「創造性」が現れ出た例

## ナンバーストーリー・ABCストーリー

- ◆アルファベットや数字の手型を順に使う

日本手話のナンバーストーリー(不気味な城)  
<https://bit.ly/2B6mmid>

アメリカ手話のABCストーリー (YouTube)  
<http://www.youtube.com/watch?v=cj1MQhXfVJg>

- ◆アルファベットや数字の手型を一つ選択し、その手型だけで語る

### 創作手話ポエム

森田明

「うみ」  
<https://bit.ly/2GeWuP1>

「たんぽぽ」  
<https://bit.ly/2DK1317>

### 疑問文の語順

Yes-No疑問文:文末にNM表現

田中 パン 食べる (田中さんがパンを食べますか?)

Wh疑問文:Wh句は文末 + whのNM表現

田中 食べる 何 (田中さんが何を食べますか?)

### NMと語順との関係

日本語と同じ語順は不自然

× 田中 何 食べる  
(田中さんは何を食べますか?)

NMMMが文全体にかかると、この語順はOK

田中 何 食べる  
(田中さんは何を食べますか?)

### 手話言語学の基本を学ぼう: 文法

松岡和美  
2019年2月10日

#### WH疑問文

「誰」「何」「どこ」「いつ」  
のような語が含まれている

—wh  
/佐藤/



眉上げ  
目の見開き  
首振り

「佐藤さんはどこですか。」

NHKテキスト「みんなの手話」P15(2018) 41

#### Yes-No疑問文

「はい」「いいえ」で  
答えることができる

—q  
/佐藤/



眉上げ  
目の見開き  
あご引き

「佐藤さんですか。」

### NM表現 NMMM(非手指標識)・NMS(非手指信号)

- ・眉(上げ・寄せ)
- ・目(見開き・細め・視線)
- ・あご(動き)
- ・口(口形)
- ・頬(ふくらみ・すぼめ)
- ・舌(舌だし・動き)
- ・頭(うなずき・動き)
- ・肩(広げ・すぼめ・動き)

### NM＝顔の表情？

Whのマーカーは単なる「疑問の表情」ではない  
Yes-No疑問とWh疑問で、異なるNMが現れる

(5) 田中 パン 食べる  
(田中さんがパンを食べますか?)  
—Q(眉上げ、目見開き)

(2) 田中 食べる 何  
(田中さんが何を食べますか?)  
—wh(眉上げ、目見開き、細かい首振り)

### NM表現と感情表現

NM表現＝文法的役割

ろう者は2つの目的で顔を使う

	感情表現 (顔の表情)	NM表現
ろう者	○	○
聴者	○	×

中国語:語の意味の区別(「声調(せいちょう)」)  
日本語:感情表現

	感情表現	語の意味の区別
中国語	○	○
日本語	○	×

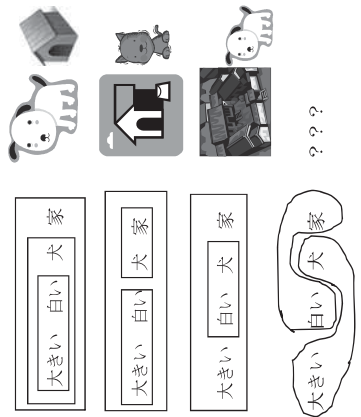
### WH分裂文

疑問詞 (WH) が文の中に現れる  
疑問文ではない  
NM表現は同じ

私<sub>wh</sub>店本 買<sub>wh</sub>う いつ 昨日  
昨日 私<sub>wh</sub>本 買<sub>wh</sub>う どこ 店  
昨日 私<sub>wh</sub>店 買<sub>wh</sub>う 何 本

### 文と文をつなぐNM表現

順接	雨が降ったから、バーベキューが中止だ 目線はつきり、定位置からのうなずき
条件	もし雨が降ったら、バーベキューが中止だ 目線ほんやり、少し頭を前に出す (固定)、うなずきで定位置に戻す (解除)
逆接	雨が降ったのに、バーベキューをやる 目線はつきり、文末で頭を後ろにひいてうなずき、最後に目の見開き、体が前に出る

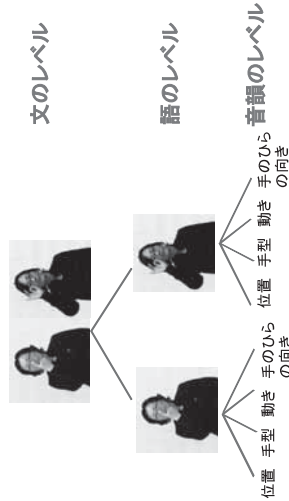


### 話題化文

話題化された表現はNMを伴い、文の最初に現れる

[パン] 田中 食べる	パンは、田中さんが食べます
[田中] パン 食べる	田中さんは、パンを食べます
[パン 食べる] 田中	パンを食べるのは、田中さんです

### 日本手話の二重分節性



### 構造依存性

- 人間は、単に語を一行にならべて句や文を作っているのではない
- 小さなものが集まって一つの固まりを作り、それが集まり、さらに大きい固まりを作る
- 異なる種類の構成素を作り、組み合わせる  
→無限の表現

### 副詞的な表現 (程度)

副詞的な情報がNMMで現れる



### 人間言語の特性: 構造依存性

大きい白い犬の家

解釈1: 犬が大きくて白い  
(家の詳細は不明)

解釈2: 犬の家が大きくて白い  
(犬の詳細は不明)

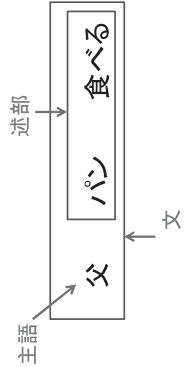
解釈3: 犬が白い、家が大きいの

不可能な解釈: 犬が大きい、家が高い



### 語の並べ方には規則がある (文法)

???  
\* 食べる 父 パン



### 人間言語にみられる構造

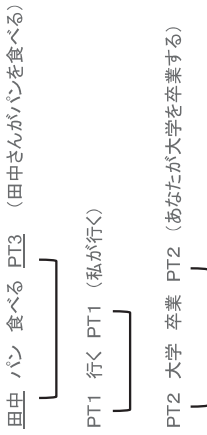
文法的な役割(主語や目的語など): 構造上の性質



### 主語の文末コピー



### 文末コピー(主語)



### 主語の省略+文末コピー

田中パンを食べる (田中さんがパンを食べる)

(主語が文脈から明らかな場合)

- a. パン 食べる (パンを食べる)
- b. パン 食べる PT3 (あの人がパンを食べる)

誤解: 「目的語→動詞→主語」

正しい解釈: 「(主語)→目的語→動詞→文末コピー」

### 否定表現(1)NEG-1 /ない/

存在しない、～ない(標準形)



### 主語の文末コピー



### 手話の否定表現

日本語「田中さんはパンを食べない」

二つの意味がある(あいまい)

- (1)「パンを食べる」の否定
- (2)田中さんは普段からパンを食べない(習慣がない、パンが嫌い)

### 否定表現(3)NEG-3 /違う/

身元・属性の否定(～ではない)



意図の否定  
～する意図・意思がない



### 否定表現(2)NEG-2(いやいや)

### 否定の意味が入った語彙

/不要/ /きれい/ /できない/ /まだ/

否定の意味を持つ語には「ピ」「ペ」口型が付くことが多い

### 否定表現(4)NEG-4 /パー/

能力の否定

自分の都合でできない  
(健康上の理由、能力がない  
など)



### NEG-3 /違う/

[田中 来る] 違う

- 文全体の内容を修正(田中さんが来るのではありません)
- 文全体の内容を確認(田中さんが来るんじゃないの?)



### 否定に関わる表現の口型



/壊れる/



/足りない/



## 手話が言語ってどういうこと？ 手話言語とその発達

松岡 和美 (慶應義塾大学)  
群馬大学荒牧キャンパス  
2019年2月10日

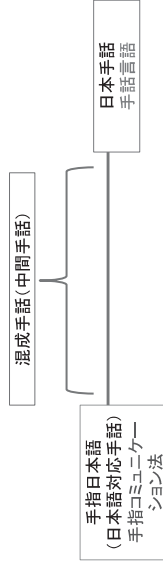
### 手指日本語(日本語対応手話)とは

- ・手指だけですべての情報が表されず、文法的な情報のほとんどは口話(声)で示される  
手指を見ると同時に口話の読みとりも行う必要あり
- ・日本語を第一言語にしている人には使いやすいコミュニケーション法

### 「日本語対応英語」？(ルー大柴語録)

- ・「マイドリームをギブアップしなければフォーエバーヤング」  
(夢を持って生きれば、常に若いということになります)
- ・「エクスペリエンスをしながらグローイングアップしていくのが、僕のフィロソフィーだから」  
(経験しながら成長していくのが、僕の哲学だから)
- ・「いい加減にホワイト(いい加減にしろ)日本語の音に基づいた訳

### 日本の状況



このすべてが「手話」と呼ばれているため、混乱が起きている

### 手指日本語の例(1)

(はね、えっと)(でね)(を) (ことが) (くっでもうね)  
私      ここ   手話 学ぶ   楽しい  
(なんでですけど) (通って) (います)  
毎回                  通う        です

### 手指日本語の例(2)

(を) (学び) (た) (でも) (大歓迎)  
手話 学ぶ   始め   人                  (しかし)   全部   歓迎   です

日本語の発音で手話単語を選んで  
いるため、意味のズレが発生

### 手指日本語(日本語対応手話)とは

- ・手話単語を日本語から借用し、日本語の文法通りに並べたもの  
その過程で日本語の音韻(表出)や意味が大きく変わることも多い  
/8/明日/～よう/等
- ・日本語にない日本語の単語の表現は、人工的に造語する  
「です」「～か?」「こんにちは」「こんばんは」等

### 日本語

語順が日本語と違う構文、非手指表現(NIM)が多い

パン   食べる   誰                  (誰がパンを食べますか?)  
私   本   買う   どこ   渋谷                  (渋谷で本を買いました)  
子ども   寝る   8時                  (子どもが8時に寝ます)

非手指表現(NIM表現)

- ・眉(上げ・寄せ)
- ・目(見開き・細め・視線)
- ・あご(動き)
- ・口(口形)
- ・頬(ふくらみ・すぼめ)
- ・舌(舌だし・動き)
- ・頭(うなずき・動き)
- ・肩(広げ・すぼめ・動き)

2種類の疑問文

Yes-No疑問文:SOV+NM表現

田中 パン 食べる (田中さんがパンを食べますか)

Wh疑問文:Wh句は文末+NM表現

田中 食べる 何 (田中さんが何を食べますか)

Yes-No疑問文

「はい」「いいえ」で答えることができる

佐藤



目上げ  
目の見開き  
あご引き

「佐藤さんですか。」

Wh疑問文

「誰」「何」「どこ」「いつ」のような語が含まれている

佐藤



目上げ  
目の見開き  
目振り

「佐藤さんはどこですか。」

NIM＝顔の表情？

Whのマークーは単なる「疑問の表情」ではない  
Yes-No疑問・Wh疑問で、異なるNM

田中 パン 食べる (田中さんがパンを食べますか?)

田中 食べる 何 (田中さんが何を食べますか?)

NM表現と感情表現

感情表現と文法  
NM表現＝文法的役割を担う(感情表現ではない)  
ろう者は2つの目的で顔を使う

	感情表現 (顔の表情)	NM表現(文法)
ろう者	○	○
聴者	○	x

手話使用者のタイプ

	観	
	ろう	聴
子	DofD (ネイティブサイナー)	DofH (アーリー・レイト、 手話習得せず等)
	聴	聴者

第1声	第2声	第3声	第4声
mā 妈	má 麻	mǎ 马	mà 骂
母	麻	馬	しかる

「顔開き」中国語入門より

中国語	感情表現	語の意味の 区別(声調)
日本語	○	○
	○	x

DofD (Deaf of Deaf) デフファミリー出身

親がろう者、本人もろう者  
生まれた時から日本手話を母語とするネイティブサイナー  
言語的・文化的少数者(じょう文化を持つろう者)

DofH (Deaf of Hearing)

手話を使わない聴の親のもとで育つたろう者  
「難聴者」「聴覚障害者」という呼称を使用する人も多い  
使用言語は人それぞれ  
・ 早期手話話者(アーリーサイナー)  
・ 後期手話話者(レイトサイナー) 日本語対応手話の使用が多い  
・ 手話習得なし(口話・筆談)

手話単語は、ジェスチャーではない

- ・ジェスチャー  
表現がひと固まりになり、ひとつの意味を伝える
  - ・手話単語  
表現はひと固まりではなく、音韻の要素に分割できる  
音韻の要素を交換すると、違う単語になる
- 日本語の場合: ane - ame (姉 - 飴)

ミニマルペアと音韻パラメータ

- ・位置  
なるほど/⇔/賞色/ /たとえば/ ⇔ /会員/  
/試す/ ⇔ /おかししい/
- ・手型  
/遊び/ ⇔ /会社/ /公開/ ⇔ /社会/  
/効果/ ⇔ /無視/
- ・動き  
/予定/ ⇔ /受付/ /バス/ ⇔ /いつも/  
/試合/ ⇔ /相戦/

ろう児の音韻の発達

シー・ドレックスとボンビリアン(1993) アメリカ手話  
 ~生後14か月: 位置(84%)  
 ↓  
 5~18か月: 動き(61%)  
 ↓  
 手型(43%→最後の2か月でも58%)

鳥越: 2~3歳のろう児の手話の発達



	手型の異化		動き
	手のひらと向き 「6」手型 - 指を 開く手型	上から下	
成人らう者	○	○	両手を下方に動かしながら手を 開く
ろう児1	○	x	手を開くだけで下方の移動なし
ろう児2	x	○	ゆるく上げた手を下方に動かす

手話の音韻の発達

動きと手型が切り離される  
 例: 兄 (手を上に動かしてから「セ」手型を作る)  
 子どもは手話表現をひと固まりでおぼえているのではない  
 音韻的な要素に分解  
 個々の要素の結合として手話を捉えている

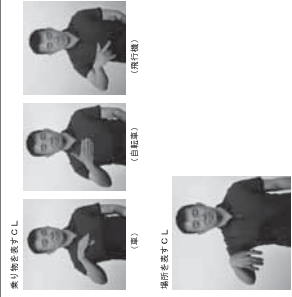
手話獲得と年齢: ニューポート(1988)

手話獲得のタイミングにより、CL動詞の表出が異なる  
 ろう者(22歳-77歳)  
 ネイティブサイナー(出生時からASL)  
 早期習得者(アーリーサイナー)3-4歳からASL  
 後期習得者(レイトサイナー)12歳以降からASL  
 産出: アニメーションを見て手話で説明  
 理解: ネイティブの手話単語(CL動詞)を見て状況を再現する

実体CL



実体CL



CLとは

存在・移動を示す動詞に組み込まれる、意味を持った表現  
 表現する対象の形態や意味カテゴリで形が決まっている  
 非利き手で「背景」、利き手で「主体」が同時に表される

### 分析結果(理解/産出)

グループ (産出)	総評	構構	手形	手型 (構構部分)
ネイティブ	0.88	0.91	0.95	0.82
アロー	0.85	0.89	0.81	0.89
レイ	0.80	0.90	0.61	0.47

グループ (理解)	総評	構構	手形	手型 (構構部分)
ネイティブ	0.89	0.90	0.82	0.74
アロー	0.82	0.82	0.71	0.64
レイ	0.76	0.78	0.58	0.44

### 背景と主体(CL表現)

(建物の横に車が止まっている)



### 実体CL

車/人物を表すCL



場所を表すCL



後期習得者のCL使用

- CL動詞を変化させないで使う  
平口を描く動き/旋回する動きが次第(単純な一本線の動き)
- 階段などで上/下に転んだ場合でも)下への単純な動き



### 手話のクレオール化(ニカラグアの事例)

ニカラグア

1979年に初めて聾学校が設立

口話を奨励(うまくいかなかった)

数字の例: 語彙化して一つの単語になっている



### 不完全なインプットから言語へ(クレオール化)

- 手話言語は、聴者主体のコミュニティでは奨励されない(抑圧される)
- ろう者の大多数が聴者の親のもとに生まれる

↓

母語使用者が極めて少ない(少数言語)

↓

周囲の言語データ(インプット)が貧弱・不完全

しかし、ろう児は安定した文法を持つ言語を身につける:「クレオール化」

### 第二世代 (ISN)

ISN(イデオマ・デ・シニヨス・ニカラグエンセ)  
Idioma de Signos Nicaraguense

4歳以下で就学してLSNに触れた子どもの手話

文脈ではなく規則で語順が決まる  
体を移動させることで他者の視点を表現  
動詞の変化がより多く出現する

### 第一世代 (LSN)

LSN(レンガア・デ・シニヨス・ニカラグエンセ)  
Lenguaje de Signos Nicaraguense

子どもたちがそれぞれのホームサインを持ち寄ったもの

使い方は人それぞれ  
一貫した文法体系なし  
回りくどい表現  
図像的(ジェスチャー的)

### ニカラグアろう学校とニカラグア手話

YouTube「ニカラグア」における新しい手話の誕生」

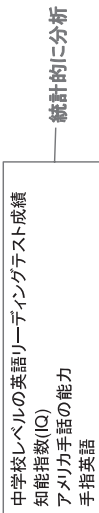
### コミュニティ内での手話のクレオール化

言語を共有するコミュニティがある限り、本人の助けがなくても、子どもたちの間で新しい言語が生まれ、発展する  
手話言語に触れる年齢が重要

センガス(2003)  
言語進化のプロセス:  
それぞれの世代で少しずつ手話の文法を発達させて、次の世代がその言語をさらに発展させる

### 2言語相互依存の原則 (Chamberlain and Mayberry 2008)

31人のDoID(ノイタイプ)ろう者



アメリカ手話の文法レベルと会話能力が高い→英語を読む能力が高い

2言語相互依存の原則は、手話言語と書記言語の間にもあてはまる

### ワーキングメモリ(作業記憶)

- 短い時間に関心の中で情報を保持し、同時に処理する能力
- 会話や読み書き、計算などの基礎となる、日常生活や学習を支える重要な能力

(広島大学大学院教育学研究科「児童・生徒のワーキングメモリと学習支援」HP)

• 言語を用いないワーキングメモリの調査:  
ろう児は聴見よりも成績が悪いと考えられてきた

### ワーキングメモリ(作業記憶)

Marshall, et al. (2015)  
作業記憶を計測するテスト(複数のブロックの組み合わせの順番や、仲間はずれの図形が表示された場所を記憶)  
言語テスト・IQテスト

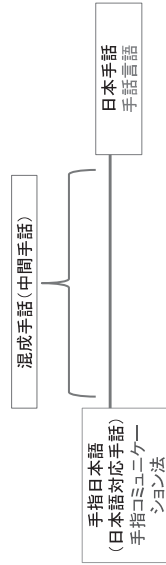
- ろう児 (DoID, イギリス手話ノイタイプ) 聴見とDoIDに大きな差はない
- ろう児 (DoIH, 親が聴者) DoIHが有意に低い成績
- 聴児

### 早期手話習得の重要性

ハンプリース他 (2014)「ろう児の言語獲得を保障する」明晴学園HPに日本語訳PDF

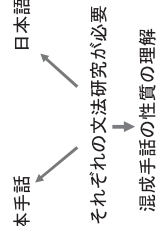
- ろう児の親に適切な情報が与えられていない
- 聴力の喪失を言語の喪失と混同する医学論文
- 第1言語の獲得には適切な時期がある
- 生後数年での言語獲得に失敗すると、言語と密接に関わる認知能力の発達が遅れて遅語をきたす
- 人口内耳の有無にかかわらず、手話を使う子は、そうでない子にくらべて学校での評価が高い

### 日本の状況

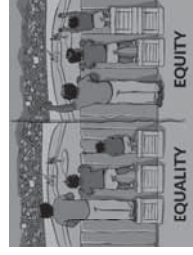


### 日本語手話・手指日本語・混成手話

日本ではすべて「手話」  
日本語手話独自の言語学的性質の研究が進まない



「みんな同じ扱い→公平」とは限らない  
それぞれの違いを理解し、尊重し合うことが重要



画像: Interaction Institute for Social Change

## もっと詳しく知りたい人のために【書籍】

- ・ 岡 典栄・赤堀仁美『日本手話のしくみ』(大修館書店)2011年
- ・ 岡 典栄・赤堀仁美『日本手話のしくみ練習帳』(大修館書店)2016年
- ・ 木村勝美『日本手話と日本語対応手話(手指日本語):間にある深い谷』(生活書院)2011年
- ・ 斎藤道雄『手話を生きる』(みずす書房)2017年
- ・ 中島和子(2016)『バイリンガル教育の方法 完全改訂版』(アルク)2016年
- ・ 松岡和美『日本手話で学ぶ手話言語学の基礎』(くろしお出版)2016年

## もっと詳しく知りたい人のために【ウェブサイト】

- ・ 明晴学園  
<http://www.meiseigakuen.edu.jp/>
- ・ バイリンガル・バイカルチュラルろう教育センター  
<http://www.bbced.org/>
- ・ キャローット大学クラーク国立ろう教育センター(英語サイト)  
<http://www3.gallaudet.edu/clerc-center/our-resources/for-families.html>

研修会の様子



講演会の様子



## 松岡和美先生研修会・講演会アンケート 結果表

回収率：80.7%（受講者 83人, 集計対象者 67人）

### 1. 参加日程について

研修会・講演会 両方に参加	研修会のみ参加	講演会のみ参加	合計
56人	4人	7人	67人
84%	6%	10%	100%

### 2. 所属・職業について（複数回答可）

手話通訳者	会社員	教育関係者	福祉関係者	学生	学術関係者	行政関係者	その他
24人	9人	8人	7人	7人	2人	0人	22人

#### その他

手話サークル会員（5人）、手話指導者（2人）、自営業、手話講座講師、歯科衛生士、手話講師、主婦、翻訳・音声通訳者、地元ろう協会、群通研会員、無記名

### 3. 「松岡和美先生 研修会・講演会」を何で知りましたか。（複数回答可）

友人・知人からの口コミ	チラシ	インターネット (HP・Facebook等)	その他
30人	29人	11人	13人

#### その他

手話サークル（3人）、大学からの案内が届いた（2人）、講義（2人）、松岡先生のツイッター（2人）、ろう協会より情報、メール、大学の先生から、学内案内

### 4. 「松岡和美先生 研修会・講演会」に関心を持った理由は何ですか。（複数回答可）

手話に関心があるため	手話通訳に関心があるため	手話言語学に関心があるため	言語に関心があるため	その他
47人	29人	27人	21人	3人

#### その他

- ・「NHK みんなの手話」監修なさっている先生が講師なので
- ・日本語対応手話と日本手話、受け身等の文法を知るため
- ・手話学習中です。日本語で日本手話の事を教わる機会が初めてだったので参加しました。

### 5. 「松岡和美先生 研修会・講演会」の内容はいかがでしたか。

とても満足	満足	普通	不満	とても不満	無回答
51人	12人	1人	0人	0人	3人



6. 「松岡和美先生 研修会・講演会」に関して、ご意見・ご要望等がございましたらご記入ください。

- ・手話に関して日本の現状を具体的にお話しいただきありがとうございました。現状は手指日本語、中間手話にあるということが分かりました。日本手話を習う場（方法）を設けてほしいです。
- ・手話を学んでいます。1.手話も言語と言われて何となくわかったようなもやもやしていた所、先生のご講演をうかがえてとても私にとってよいタイミングよいお話嬉しくありがたく思いました。  
NHK みんなの手話ワンポイント手話何となく両方覚えるみたいなき感じでした。ミニマルペアも何となく覚える方法くらいの感じでしたが、とてもはっきりいたしました。2.先生が「言語学者として…」とお話しなさるのをうかがい、また最後のご講義でお話された今後学ぶための心構え等でこれからの学習の方針が見えてきたように思います。本当にありがとうございました。
- ・研修会・講演会両方に参加させていただきました。手話の文法について、細かい解説をしてもらえないので、大変勉強になりました。先生の人柄もあったと思いますが、あつという間の時間でした。まだまだ知らないことがあるのでまた研修会お願いしたいです。
- ・できましたら、毎年（定期的）に開催していただきたく存じます。
- ・初めての参加で色々考えさせられることがたくさんあった。これまで何も考えないで手話を指導していました。これからはきちんと CL と RS を考えて意味を意識して教えていきたいと思ひます。ありがとうございました。
- ・講習会で受講生に手話を教えるための参考と指導方法をさらに研磨するため、貴重な CL と RL は大いに参考になりました。（NM も）ありがとうございました。先生、健康に気を付けてください。
- ・すぐ参考になっておもしろいでした。ありがとう。またぜひ研修会に学びたい。
- ・最後の質問の回答が良かった。地域で使われている地域のろう者のもつ手話を学習者に教えていけばよい。人工的に造られる手話は私も要らないと思ひます。
- ・手話言語学というとな難しすぎるかもと心配しながらの参加でしたが、とても興味深い内容でした。また、松岡先生の研修会に参加したいです。手話だけでなく言語学というものにも魅力を感じました。ニカラグアろう学校の話でカンパニーとコミュニティという話はなるほどと思われされました。子供の手話語りは魅力的でした。人と人がかわる時言語が大切でろう者の言語を尊重したいと思ひました。
- ・私がこれまで手話について聞いてきた情報が間違っただけだったり誤解に基づいていたものだったと知ってびっくりしました。正しい情報が知れてうれしかったです。
- ・ニカラグア手話についてもっと調べてみようと思ひます。最後の質問に対する答えがとても興味深かったです。本日はありがとうございました。手話についての関心と学ぶ意欲が高まりました。また機会があればよろしく願ひいたします。
- ・手話が沢山の言語の中の一つだと改めて感じました。ろう者の育った背景など様々な要素が関係していることなどネイティブに寄り添った心温まる講演に心から感謝しつつ、これから手話の進歩のみならずろう者への心からの理解も深めていきたいと思ひています。ありがとうございました。
- ・2時間ありがとうございました。映像やインターネットを使い楽しく学ぶことができました。また、機会がありましたら参加したいです。
- ・日本手話に関わろうとするととかくいろんな誤解を受けがちですが「他の全てを尊重した上で日本手話に興味を持ち、研究している」というスタンスがもっと広く伝わればいいのにと思ひました。今回の研修・講演で学べたことは内容もちろんです。上記の事も大きいです。通訳者としてはとにかく日本手話で語られるろう者の言葉を正確に理解し、正確に伝え、またその逆（周囲→ろう者）も然りでそれが責務です。その思いがとても強くなりました。どうもありがとうございました。
- ・手話の否定表現、今までよくわからなかったのですが、先生の説明のおかげで区別がつかました。これをすぐに判断して使い分けが正しくできるよう頑張ります。ありがとうございました。
- ・具体的に日本手話リズムを教えてもらえる研修があればうれしいです。（うなずきや問などできる聴が少ない気がするので）
- ・「どうして手話は一つ」としてはいけなひのか、手話言語とかどのようなものなのかお話を聞いてみたくて参加しました。日本手話という言語について研究をされている先生からのお話はとても興味深くもっと勉強してみたいと思ひました。初めて手話を知った時、英語と同じように言語だと感じたことを思い出し、手話通訳に携わる者としてさらに勉強しなくてははいけなひと感じました。先生が手話言語研究をととても楽しんでやられていることが伝わり親しみを感じました。2日間、ありがとうございました。
- ・これまで説明がつかなくった部分が、言語学者の説明によって理解できました。
- ・地域の手話講習会で、ろう講師が指導の際に言う「俳優のように表情豊かに」に違和感がありました。「文法もあるよね」でも「まだ早い」との考えやろう者として倫理的に説明も難しひ…悩み…本日の講義で「表情の顔の動き」分ければよいのだとスッキリした思ひです。

- ・日本手話がどのようなものなのかがよく分かりました。次回があれば参加したいです。ずっと日本語対応手話を使っていたので（友人が中途失聴者だったので）ろう者と時々会話が成立せず、なぜなのかわからなかったのが理由が分かりました。でも、ネイティブサイナーには会ったことがないので、いつかお会いして日本手話を学んでみたいと思いました。
- ・大変興味深く受講させていただきました。手話が言語とは理解していたつもりですが、「なぜそう言えるのか」の部分の深く教えていただき勉強になりました。
- ・ろう児の言語発達には手話が必要。きちんと身につけば日本語もという意見だった。言語を身につけそびれた子ども（小1～小6日本語学級）で、中1から聾学校に入って身につけたが、ある程度以上行かない理由が少し納得できた。
- ・翻訳教育を20年以上しており、今後ろうの翻訳学習者にもセミナーや講義で情報保障をしたいと考えております。そのために学術手話通訳者の養成をしていただけるのは本当にありがたいです。何らかの形で今後も接点を持たせていただけると嬉しいです。東京からは少し遠いですが、機会があればまた参ります。JSL学習者でもあり、ご本の内容を生で聞くことができ本当に嬉しかったです。いろいろと補足もあり、腑に落ちることが多かったです。言語学を勉強した大学時代を思い出しました。今はもっと進んでいるのでしょうか。「手話」は大賛成です。英語、フランス語、ロシア語の並びにあるのはとても自然。
- ・日本手話の事が分かったし、もっと大切にしなければならぬと思った。日本手話を尊重していきたい。
- ・ありがとうございました。
- ・非常に勉強になりました。日本手話の言語学的研究にもまだまだ発展の余地はありそうですね。音声言語や社会言語学、対象言語学的な研究も展開していかなければならぬと思った次第です。
- ・非常に勉強になりました。日本手話の言語学的研究にもまだまだ発展の余地はありそうですね。音声言語や社会言語学、対象言語学的な研究も展開していかなければならぬと思った次第です。
- ・CLが非常に興味深かったです。また、言語であることが理解できました。
- ・良い勉強になりました。※情報保障について、なるべくホワイトボードよりPC投影を欲しい。字が小さくと見えないうの。運営実行委員たちへ、お疲れさまそして、ありがとうございました。
- ・いい勉強になりました。
- ・もっと勉強したいと思いました。（2日間では短すぎて）また研修会参加したいです。地域でも勉強・分析・研究（とまではいきませんが）話していきたいです。ありがとうございました。
- ・先生が研究なさっている最中の内容があったり、まさに最先端の研究を生で触れることができ楽しかったです。
- ・ずっと学びたいと思っていたテーマでこのような貴重な機会をオープンにいただき本当に勉強になりました。自分で本を読むだけでは読み解けなかったことが入門編として分かりやすく頭に入ってきました。ありがとうございました。また、託児を設けていただいたおかげでいつもなら諦めていたところ参加でき、本当に感謝申し上げます。
- ・CLがよくわからなかったため、1から勉強するつもりで申し込みました。通訳を目指して勉強する中で聞き取り通訳が対応手話になってしまい遅れますし、ろう者のNMを読み取れず誤訳が多いです。今回学んだことを忘れずに、いつも心にとめて通訳をするように頑張ります。
- ・本では説明できるところまで細かく指導していただき理解できました。
- ・講演会の内容と研修会の内容が重なる部分があったので、出席者もほぼ変わらないのであれば研修を第4講としてもっと別の話を聞いてもよいのでは…？
- ・久しぶりに手話言語学を学ぶことができ、とても良い刺激となりました。通訳がとても素晴らしかったです。
- ・手話が言語であることの背景や根拠を分かりやすく示していただき、理解が進みました。手話の奥深さを改めて感じました。すべての手話学習者は先生の講義を受けるべきではないかと思えます。
- ・手話が言語であるというのがすごく理解できました。日本手話と日本語対応手話の違いもよく分かりました。
- ・確かにアクセスは悪いかもかもしれませんが、本当に面白かったです。また来たいです。群大の手話のパンフレットも見たらとてもおもしろく、大学について分かりました。沢山の人が手話言語を学びたいと集まっているということが感動したし、自分ももっと学びたいと思えました。
- ・とても興味深い内容でした。もっともっとお話を聞きたいと感じました。日本手話学習者としての疑問が松岡先生のお考えや解釈を聞いて納得できたことが多くありました。松岡先生の「日本手話が大好き！」という熱い思いが伝わってきました。今回のような研修会を続けてほしいです。ぜひぜひ。充実した2日間でした。ありがとうございました。

- ・聴こえる方からの手話の文法を教えていただける機会が初めてでした。しかも日本手話を研究されている方からの研修2日間はとても贅沢な時間でした。手話講習会、手話教室では表現のみで文法についての説明はほとんどなく、今回音韻やCL、RS、うなずきと意味を理解できて、とても勉強になりました。うなずきの条件、逆説、CL、RS、自動詞、他動詞をもっと勉強したいと思いました。また研修会の機会を希望したいです。
- ・これからも第2回、第3回と開催してください。絶対来ます、お願いします。うなずき、他動詞、自動詞、CL、RSなどわからないことが沢山あります。音韻パラメーター、おもしろかったです。松岡先生の講義はとてもわかりやすいです。手話教室で教わったことが日本語で再確認出来て本当に良かったです。東京でも開催されたらもっと他の人に薦めたい。みんなに聞いてほしいです。松岡先生がとてもかわいくて大ファンになりました。
- ・日本手話のミニマルペアについて、位置、手型、手のひらの向き、動きについて普段特に考えずに何となく手話していました。このことをわかりやすく教えて頂けて、本だけではよく理解できなかったかもしれません。CL、RSではやはり、RSは苦手で、絵本の読み聞かせでのRSでは、日本語で語るには簡単だけれども、そこに顔であらわすRSに場面展開する時、私は大変苦労しています。今回の講義で場面を切りとり、クローズアップさせれば良いと理解できたのは良かったなと思います。手話を学びたいと思ったのは、聴者と違う表情の豊かさにひかれたのが始まりです。ろう者の先生にもそのような事を伝えるとあたり前のことです、言語ですからと言われました。「文法」だった…。手話を学んでいる身の者がわかっていませんでした。この2日間改めて学び直せたことは、大変有意義でした。ありがとうございました。
- ・書籍の紹介はもう少し早めか、研修案内の時に参考として記載があればありがたいです。講師の素直に訂正する姿をみて、一緒に研修をつくっているのかな〜と同じ視線で研修を受けることができ、参加してよかったと思いました。ありがとうございました。スタッフの皆様、お疲れさまでした。
- ・日本手話の勉強を始めてしました。まだまだわからないことがたくさんあり、このような学習の機会が時々、継続してあるといいなと思いました。手話の発達過程は非常に興味深かった。あるろう者が0歳より手話を導入し、発語獲得から2語文生成あたりまでの手話言語の発達はだいたいわかってきたが、その後の発達過程は実はよくわからない。そこを調べた日本の研究があれば知りたかった。このような貴重な研修会・講演会を無料で開催して下さった群馬大学及び関係者の皆様に感謝いたします。本当にありがとうございました。勉強になりました。
- ・CLの上手下手が通訳の上手下手に関係すると思っていて、大変興味深く受講させていただきました。登録通訳者が何人か参加していたが、本を持参した人がたいへん少なかったことが印象に残りました。群馬の通訳者のレベルが低い証拠ではないでしょうか？
- ・私はふだん対应手話を使っているのですが、2日間受けただけでも2つの手話の違いがいくつも見付き、とても楽しかったです。この2つの手話の比較文化はやられている方は少ないのでしょうか？また東京や関東で公演されることがあったら、ぜひ参加したいと思います。ありがとうございました。
- ・大学の講義で手話について学んでいますが、歴史や手話使用者のタイプといったことは学ぶ機会がないので、学べて良かったです。最後の質問に対する解答がとてもおもしろく興味を持ちました。ありがとうございました。
- ・2日間ありがとうございました。手話初心者の私には難しい内容のこともありましたが、難しい内容を教えて頂くなかで今まで曖昧に理解していたところがはっきりと分かるようになりました。先生の人柄もあって、非常に楽しく勉強させて頂くことができました。ありがとうございました。

日本財団助成「学術手話通訳に対応した通訳者の養成」事業

# 松岡 和美 先生 研修会・講演会

群馬大学では、2017年度から日本財団から助成を受け、群馬県との共同事業として「学術手話通訳に対応した通訳者の養成」事業を始めています。本事業の一環として、手話通訳者の技術の質の向上を目指し、さらに高等教育機関における聴覚障害学生の手話通訳ニーズへの対応へつなげるため、スタッフの研修、手話指導者並びに手話を学んでいる学生・ろう当事者とその関係者の啓発を目的として、松岡和美先生をお招きし、研修会・講演会を開催いたします。この機会に是非ご参加ください。

## 研修会

### 「手話言語学の基本を学ぼう」

2019年2月9日(土)

- ・第1講 「音韻・形態」(10:00~13:00)
- ・第2講 「CLとRS」(14:00~17:00)

2019年2月10日(日)

- ・第3講 「文法」(9:00~12:00)

## 講演会

### 「手話が言語ってどういうこと?手話言語とその発達」

2019年2月10日(日) 13:00~15:00

会場：国立大学法人群馬大学荒牧キャンパス 〒371-8510 群馬県前橋市荒牧町4丁目2番地

### 【会場】

国立大学法人群馬大学荒牧キャンパス教育学部C棟201教室  
(〒371-8510 群馬県前橋市荒牧町4丁目2番地)

### 【参加費】 無料

### 【お申込み方法】

ホームページ(群馬大学手話サポーター養成プロジェクト室)またはFAXにてお申込み下さい。



### 【締切】 2019年1月21日(月)

### 【託児所のご案内】

当日は臨時的託児所を開設いたします。ご利用希望の方につきましては、申込みの際に託児利用希望欄へチェックをして申込みをお願いいたします。詳細については後日ご連絡いたします。  
(※「@jimugunma-u.ac.jp」より連絡させていただきますので、受信できるようにドメイン設定をお願いします。)

### <講師 松岡 和美 先生 プロフィール>

大阪出身。京都外国語大学卒業、1990年筑波大学大学院教育研究科修了(教育学修士)、1998年コネチカット大学大学院言語学部博士課程修了(PH.D.)。メンフィス大学外国語・外国文学部助教授(日本語)を経て、慶應義塾大学経済学部教授(英語)。専門は手話言語学と言語発達。ろう者との共同研究多数。著書『日本手話で学ぶ手話言語学の基礎』(くろしお出版)ほか。2018年4月よりNHKEテレ「みんなの手話」テキスト執筆と監修。聴者。

### 【お問い合わせ先】

国立大学法人群馬大学 手話サポーター養成プロジェクト室(〒371-8510 群馬県前橋市荒牧町4丁目2番地)

E-Mail: SLSDP@jimugunma-u.ac.jp FAX: 027-220-7390 ※お問い合わせはメールもしくはFAXにてお願いいたします。

主催：国立大学法人 群馬大学 助成：日本財団

# 松岡 和美 先生 研修会・講演会

(参加申込書)

お申込日 年 月 日

フリガナ			
氏名			
住所	〒		
連絡先	電話		FAX
	Eメール		
職業 (または所属)			
参加希望日	<input type="checkbox"/> 全日程参加	<input type="checkbox"/> 2月9日(土)~10日(日)研修会	<input type="checkbox"/> 2月10日(日)講演会
託児利用 (無料)	有 ・ 無		

※2月9日・10日の研修会は、両日参加できる方のみ受け付けます。

どちらか1日のみの参加はできかねますのでご了承ください。(講演会のみ参加は可能です。)

上記のとおり、日本財団助成「学術手話通訳に対応した通訳者の養成」事業  
松岡 和美 先生 研修会・講演会に申込みます。

<FAX 送信先>

群馬大学 手話サポーター養成プロジェクト室

FAX : 027-220-7390

申込期限 : 1月21日(月)